

こども政策DXの推進に向けた 取組方針2024（概要）

令和6年7月
こども政策DX推進チーム

1. 取組方針の位置づけ/基本的な方向性

背景

- ◆ 妊娠、出産、出産後の間もない期間の行政手続きを対面で申請しなければならないことの負担感や、子育てに関わる正確な情報を入手できることなどを求める声を踏まえ、**2023年3月に「こども政策DXの推進に向けた当面の取組方針」**が策定された。
- ◆ **2023年10月に内閣官房にデジタル行財政改革会議が立ち上がり**、子育て分野にも焦点を当て、デジタル完結の原則に則り、業務やネットワーク、システムを改善し、業務の効率化と質の向上につなげるための検討が加速。
- ◆ 子育て分野については加藤鮎子こども政策担当大臣の発表内容に則り、**2024年6月にデジタル行財政改革会議においてとりまとめがなされた**。その内容を踏まえ、こども家庭庁にて**「こども政策DXの推進に向けた取組方針2024」**を策定するもの。

策定の目的/基本的な方向性

- ◆ DXの推進に当たっては、**地方公共団体や民間事業者との協力・連携が不可欠であり、こども政策DXの取組方針を明らかにするとともに、関係者に広く周知することを目的とするもの**
- ◆ こども・子育て政策のデジタル化によって、**こどもや子育て家庭などが必要な情報に素早く、簡単にアクセスでき、様々な行政手続きをストレスなく行うことができる環境を整備し、子育てをより楽しく、安心、べんりなものとする**
- ◆ デジタル技術を活用し、保育所などの子育て関連事業者や地方自治体など、こども政策の現場に携わる方々の事務負担を軽減し、**こどもや子育て家庭への支援にかける時間やエネルギーをできるだけこども政策の質の向上に振り向けていく**
- ◆ そのため、デジタル化の原則（①デジタルファースト、②ワンスオンリー、③コネクテッド・ワンストップ）に沿って保護者や現場の負担が軽減されるよう、**出産から子育ての各ステージを通じたシームレスな仕組みの構築を目指し、各分野のDXを推進する**
 - ①必要な情報を最適に届ける仕組みの構築
 - ②出生届のオンライン化
 - ③母子保健DXの推進
 - ④里帰りする妊産婦への支援
 - ⑤保育DXによる現場の負担軽減
 - ⑥放課後児童クラブDXの推進
 - ⑦こどもや家庭に寄り添った相談業務のDXの促進
- ◆ 国は共通基盤となるシステム構築やデータの標準化を進め、その上において民間事業者がユーザーインターフェイスなどの品質を競い合うことで、子育て当事者の利便性や保育現場の業務効率の向上を実現することを基本とする

2. 具体的な取組方針①

①必要な情報を最適に届ける仕組みの構築（子育て支援制度レジストリの整備）

こども家庭庁
総務省、デジタル庁、他

- ◆ 2024年度中に、未就学児を対象とした支援制度から、全国の子育て支援制度を網羅的に調査
- ◆ 子育て支援制度レジストリ（データベース）を国が整備、民間の子育てアプリと連携
- ◆ 2025年度以降、日常使う子育てアプリに、必要な情報を最適なタイミングで先回りしてスマートに配信
子育て世帯が自ら調べて把握する時間の削減や子育て支援制度の利用率向上を目指す

②出生届のオンライン化

法務省、厚生労働省
デジタル庁、こども家庭庁

- ◆ 2024年8月を目途に、希望する市区町村について、出生証明書の画像添付方式による出生届のオンライン化を実現
- ◆ 2026年度を目途に、マイナポータルから戸籍情報連携システムを介した出生届のオンライン届出を可能とし、全市区町村での実施を目指す。出生証明書については、医療機関から自治体に直接提出を可能に

③母子保健DXの推進

こども家庭庁、
デジタル庁

- ◆ 全国共通の情報連携基盤（PMH※）の整備や、母子手帳アプリの活用により、
スマホでの健診受診・健診結果の確認やプッシュ型支援等を行えるようにし、利便性の向上を実現
- ◆ 電子版母子健康手帳の在り方について、有識者を構成員とした検討会において、課題と対応を整理し、
この議論を踏まえ、ガイドラインを作成
- ◆ これらの取組により、電子版母子健康手帳の普及を含む母子保健DXの全国展開を目指す

※ PMH (Public Medical Hub) : 住民、医療機関、自治体の間で母子保健情報を迅速に共有・活用するための情報連携基盤。

④里帰りをする妊産婦への支援

こども家庭庁、
デジタル庁

- ◆ 里帰り先と住民票所在地の自治体で切れ目のない支援を提供するとともに、煩雑な手続を不要にし利便性の向上を実現
- ◆ 自治体や子育て経験者に対する里帰りに関する実態やニーズを調査するとともに、里帰りに係る情報連携のための制度改革を行ったところであり、引き続き、里帰り妊産婦に係る母子保健情報の自治体間の情報連携を可能とするため、PMHを整備

2. 具体的な取組方針②

⑤保育DXによる現場の負担軽減

こども家庭庁
デジタル庁

フェーズ1：保育DXの前提としてのICT環境整備

- ◆ 2025年度中に100%を目指し保育所等のICT導入や業務支援アプリの活用を推進
- ◆ フェーズ2で整備する基盤の標準仕様の検討を踏まえ、段階的・計画的にICTの環境整備

フェーズ2：保育DX（データ連携による付加価値の創出）

- ◆ 納付・監査等の業務の標準化、保育施設等や自治体の業務システムと連携した施設管理プラットフォームの整備により事務負担を大幅に軽減
- ◆ 保育所入所申請事務や届出情報の標準化、再調整等の申請手続の簡素化
- ◆ 保活情報連携基盤を構築し、情報収集や施設見学予約、窓口申請等の一連の保活をワンストップで完結
- ◆ 就労証明書については追加項目を精査・標準化、オンライン提出を可能とする

※デジ田交付金TYPE Sを活用して保育業務のワンスオンリー、保活ワンストップを試行

フェーズ1から2への移行を支える取組として、保育ICTラボ（仮称）への支援を検討。ロールモデルの創出と横展開を図る

⑥放課後児童クラブDXの推進

こども家庭庁

- ◆ 保育DXを参考しつつ、希望する自治体や事業所の放課後児童クラブDXを推進
- ◆ 利用申請のオンライン化のため、申請内容を業務システムに自動的に取り込み利用調整や利用料算定を円滑化するなど、業務内容の整理を進めるとともに、利用手続や事業運営に関するDX推進実証事業を実施

⑦こどもや家庭に寄り添った相談業務のDXの促進

こども家庭庁

- ◆ 2024年度中に児童相談所やこども家庭センターにおけるデジタル技術の活用状況を把握。業務フロー内でデジタル技術の活用により効率化が期待される業務プロセスを整理
- ◆ その結果も踏まえ、他のこども・子育て分野等のDXの取組と連動しながら、児童相談所（都道府県等）やこども家庭センター（市町村）の業務支援アプリ等の活用を含めたICT化をより一層推進

かわさき子育てアプリについて

(1) 現状と課題

概要	R3.3~、母子手帳アプリ「母子モ」（母子モ社製）を本市使用に一部カスタマイズして提供中		
主な機能	<p>①妊娠健診・乳幼児健診の記録 ②身体発育曲線の記録 ③予防接種の記録・管理・通知 ④子育て支援施設(医療機関・子育て施設等)の検索</p> <p>保護者が手入力</p> <p>⑤本市の妊娠・子育て情報(市HP)へのリンク集 ⑥地域の子育て情報(イベント情報等)の検索 ※本市独自機能(市HP・イベント情報かわさきとの連携) ⑦プッシュ機能(利用者がアプリに登録した月齢情報等をもとに、必要な健診・予防接種や手続き等を案内)</p>		
登録数	<u>ユーザー登録累計:32,346人(R6.12.末時点)</u> ※約600人／月(妊娠届数:約1,000件／月)		
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブユーザー数(月1回以上アプリを起動した人):約4,000人／月 ※アクティブユーザー数に変化なく、アクティブユーザー率は減少傾向 ・よく使われている機能:①地域の子育て情報、②予防接種管理、③身体発育曲線の記録 ・ニーズの高い機能(未実装):①予約機能(健診・予防接種、イベント)、②申請機能(サービス・制度) 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て世帯にとって必要な機能がアプリに搭載されておらず、継続的にアプリが利用されていない状況がある。 ○利用者ニーズに対応した機能が未実装のため、新規機能の追加など、アプリの機能強化を図っていく必要がある。 		

【現行】かわさき子育てアプリ画面①

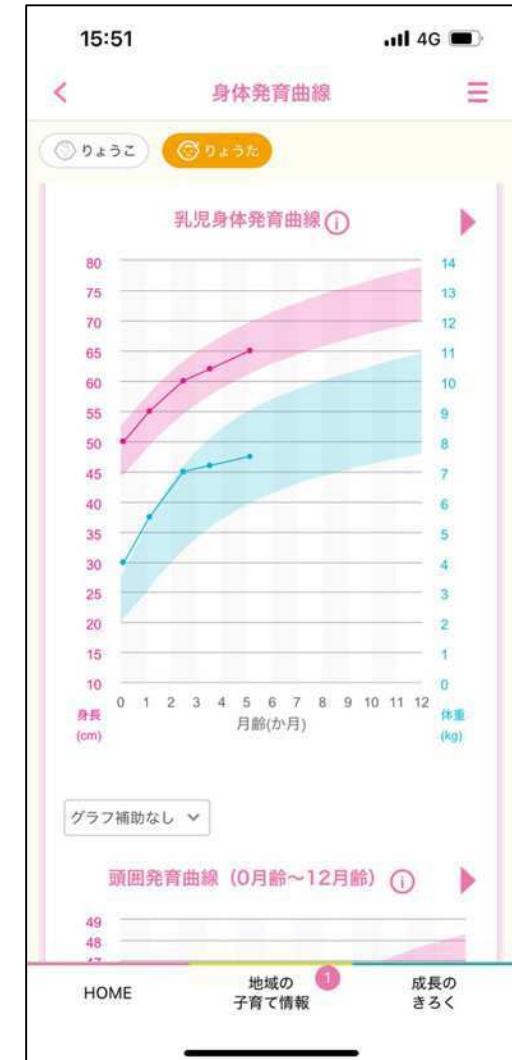
ホーム画面



予防接種管理



身体発育曲線



【現行】かわさき子育てアプリ画面②

乳幼児健診

子育て情報

イベント検索

【現行】かわさき子育てアプリ画面③

成長のきろく①



成長のきろく②



(2) 取組の方向性(リニューアルのコンセプト)

- 国が進める母子保健DXやPMH等の方向性も踏まえながら、ユーザー目線でアプリを見直し、必要な機能の追加や内容の充実を図ることにより、子育て世帯にとって魅力的で、継続的に利用されるアプリにしていく。
- 子育てアプリの機能を活用することにより、本市の業務効率の向上も併せて図る。

(3) リニューアル(案)

〈新規機能〉

①予約・申込機能

・区役所等が実施する子育てイベント・講座の申込をアプリで行えるようにする。

②申請・届出機能

・妊娠出産期の必須手続き(4手続き)をアプリで行えるようにする。

○妊娠届(情報の提出のみ。面談は従来どおり区役所で対面実施)

○出生連絡票

○出産応援ギフト(5万円)

○子育て応援ギフト(5万円)

③乳幼児健診手続き機能

・乳幼児健診(1歳半及び3歳)について、問診票の提出や記録の確認等アプリで行えるようにする。

④電子母子健康手帳への対応

・国発出予定のガイドラインに基づく「電子母子健康手帳」機能を搭載し、本格展開に着実に対応する。

〈拡充機能〉

①制度案内の充実

・子育てに関する主な制度をアプリに掲載し、手続きができる外部サイトに誘導・連携する。

(アプリで完結、ぴったりサービス、e-KAWASAKI、LoGoフォーム等)

②プッシュ通知の充実

・子育て支援制度レジストリを活用し、プッシュ通知の量と質の向上を図る。

一時保育システムについて

(1) 現状と課題

事業概要	保育所等に通っていない小学校就学前の児童の保護者が就労、通院、リフレッシュ等を行うため、保護者に代わり一時的に保育する制度
実施園数	87施設(公立園4園、民間保育所82園、認定こども園1園)
利用人数	R3年度:84,590人 R4年度:92,829人 R5年度:100,788人
課題	<p>○市民は電話で施設の空き状況を確認し、利用までの諸手続きは電話や紙が中心で、アナログな手続きが多く利用しにくい ○施設は、市への報告等を所定のエクセルに手入力。減免項目拡充による対象者増加に伴う作業量の増大や誤入力が多数発生している。 ○所管課は、審査項目が細かく多岐にわたるため、紙審査を実施している状況。利用実績の把握は可能だが、需要把握が困難な状況</p> <p>利用者・施設等から改善を求める声が多い</p>

(2) 取組の方向性

一時保育システムを新たに導入することで、空き状況確認や予約をスマホから行えるようにし、保護者の利便性を向上させるとともに、DXにより施設の事務作業を効率化し、保育業務に従事する時間を確保します。

システム導入後のイメージ図



2 令和7年度 重点施策 ② 『安心して子どもを産み育てられる環境づくり』

こども・子育て施策におけるデジタル化の推進

442.477千円

① かわさき子育てアプリのリニューアル

30,220千円

拡充

ユーザー目線で子育てアプリの機能や掲載情報の充実を図り、子どもを産み育てるすべての家庭で日常的に利用していただけるような、便利で魅力的なアプリへのリニューアルを行います。
(令和8年1月リリース予定)



〈リニューアル予定の内容〉

I 子育てアプリの子育て情報ポータルサイト化

・子育てに関する制度・情報をアプリに掲載し、必要な手続きに誘導・連携

II 予約・申込機能

・区役所や子育て支援機関等が実施する子育てイベント・講座をアプリでかんたん申し込み

III 申請・届出機能

・妊娠出産期に必ず行う手続きをアプリでいつでも申請
○妊娠届 ○出生連絡票 ○出産応援ギフト ○子育て応援ギフト

IV 乳幼児健診手続き機能 (乳幼児健診のDX化関連)

・乳幼児健診(1歳半及び3歳)について、予約の変更、問診票提出や健診結果の確認等をアプリでかんたん手続き

V 電子母子健康手帳への対応

・国のがいドラインに基づく「電子母子健康手帳」機能を搭載

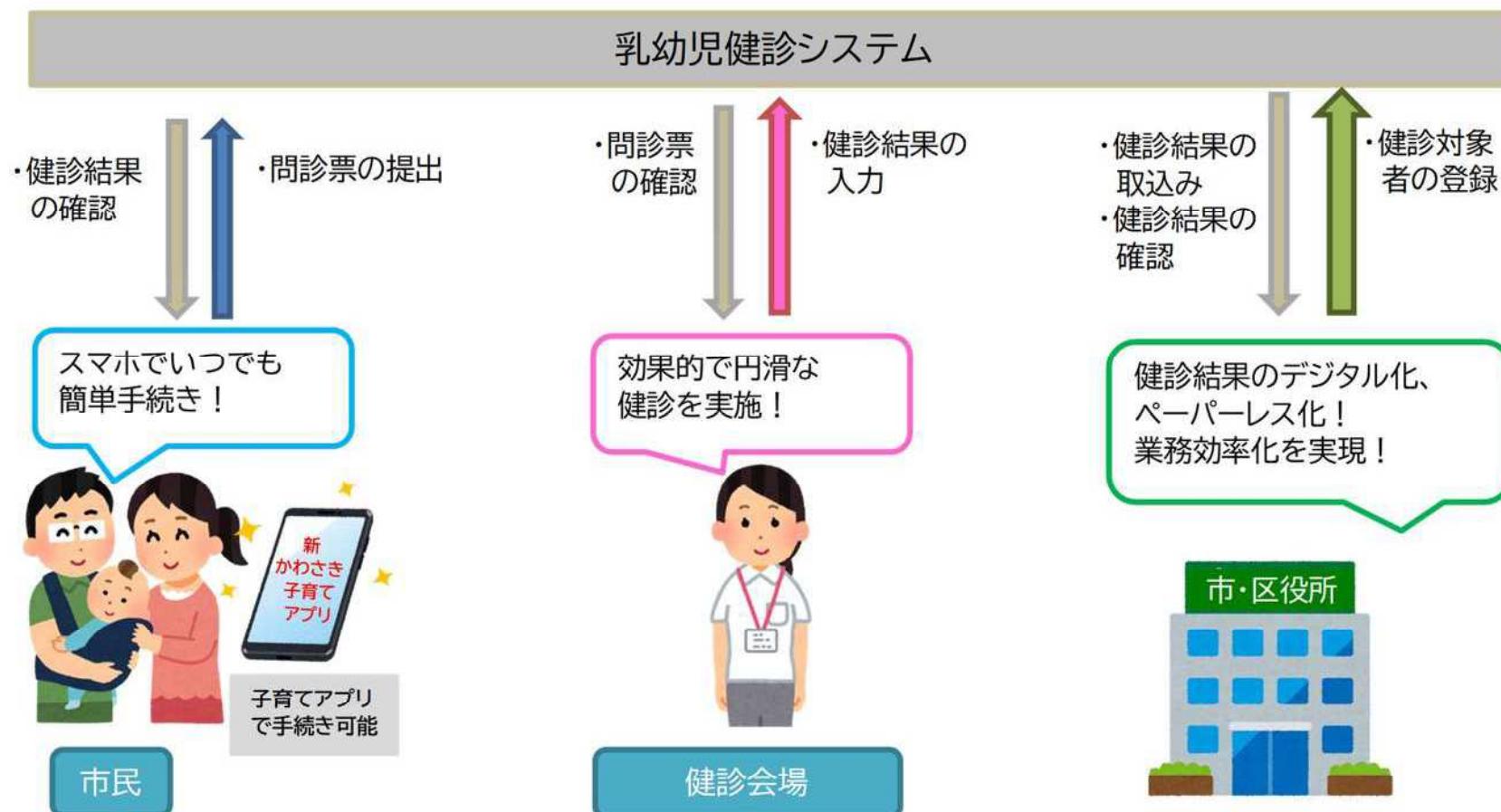
2 令和7年度 重点施策 ② 『安心して子どもを産み育てられる環境づくり』

② 乳幼児健診のDX化

181,328千円

拡充

乳幼児健診システムを新たに導入することで、乳幼児の集団健診の予約変更、問診票提出、健診結果確認等をアプリで行えるようにして、保護者の利便性を向上させるとともに、本市の業務効率化を図ります。



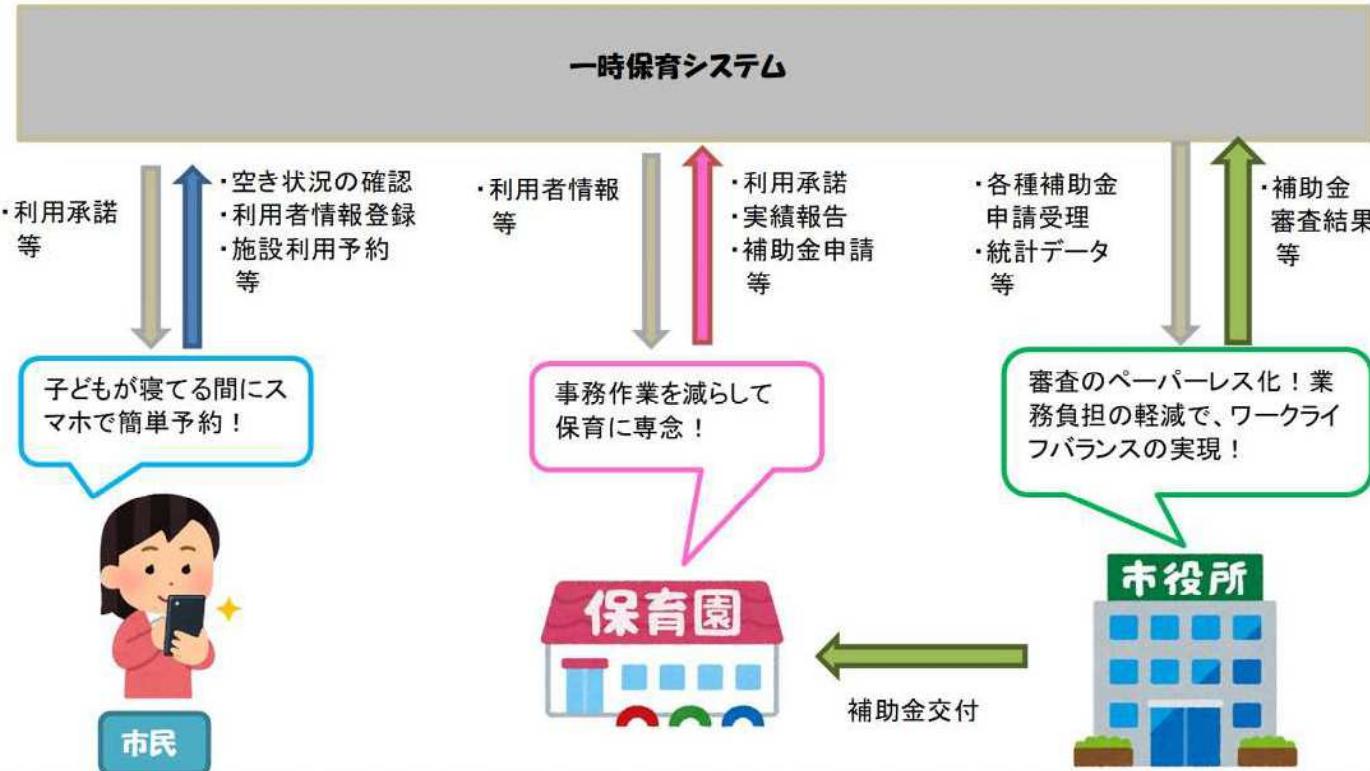
2 令和7年度 重点施策 ② 『安心して子どもを産み育てられる環境づくり』

③ 一時保育システムの導入

230,929千円

拡充

一時保育システムを新たに導入することで、空き状況確認や予約をスマホから行えるようにし、保護者の利便性を向上させるとともに、DXにより施設の事務作業を効率化し、保育業務に従事する時間を確保します。



川崎市で子どもを産み育てるすべての方々へ

<かわさき子育てアプリ> <https://www.city.kawasaki.jp/450/page/0000111813.html>



積極的なダウンロードを是非お願いします

かわさき子育てアプリモニター座談会 実施概要

日時	場所	参加人数
令和7年1月31日(金) 10:00~11:00	中原区保育・子育て総合支援センター	5名
令和7年2月3日(月) 10:00~11:00	宮前区保育・子育て総合支援センター	6名
令和7年2月5日(水) 10:00~11:00	川崎区保育・子育て総合支援センター	7名

- 各保育・子育て総合支援センターの利用者に、センターから声かけ・依頼し、モニター協力者を確保した。
- モニター協力者には、事前にアプリをインストール・利用してもらい、気付いた点をメモしてもらった。
- 座談会当日は、現行アプリの良い点・よく使う機能や、改善が必要な点、追加してもらいたい機能等について意見交換を行った。



かわさき子育てアプリ
COLORS
CULTURE
CARE
アクション
2023年3月30日

妊娠から出産、子育てまで
フルサポート!

かわさき子育てアプリ
リニューアルに向けて

意見募集中

御意見をいただく流れ

- ①アプリを使ってみる
- ②気づいたことをメモ
- ③懇談会で伝える

かわさき子育てアプリには、
①便利な機能・機能の追加
②予約機能の追加
③活動登録・イベント情報
④各種セミナーなど
便利な機能があります。
日々の子育ての悩みや、お話し下さい。

かわさき子育てアプリには、
①便利な機能・機能の追加
②予約機能の追加
③活動登録・イベント情報
④各種セミナーなど
便利な機能があります。
日々の子育ての悩みや、お話し下さい。(妊娠・出産へ贈り
までを切り出しながら)

WEBでのメモ(投稿)
も可能です
<https://loapform.jp/p/garwES>

アプリダウンロード
Android iOS

QRコード

白岡
令和7年1月31日(金)
10時~11時

堺町
地域子育て支援センター
なかがわ

問い合わせ先 川崎市こども未来局総務部企画課
電話:044-200-1135 mail:45kikaku@city.kawasaki.jp